

ペルシャ湾国家デーを記念した指導者のメッセージ

イスラム革命の指導者イマーム・サイイド・モジタバ・ハメネイ師は、2026 年 4 月 30 日の国民ペルシャ湾デーに際してメッセージを発表しました。その全文は以下の通りです。

<https://en.khamenei.ir/ne>



要旨

ペルシャ湾はイスラム諸国、とりわけイランに授けられた神聖な祝福であり、同国の歴史・文明の核心である。欧米列強は長くこの地域を侵略し、治安悪化と脅威をもたらしてきたが、イランはポルトガル、オランダ、英国など外来勢力と戦い独立を守ってきた。イスラム革命はこの抵抗の歴史を転換し、現在の米国主導の軍事侵攻に対してもイランは勝利を収めつつある。湾岸諸国の支配者でさえ、地域不安定の主因が米軍基地の存在にあると理解し始めた。イラン国民の覚醒と団結はかつてなく強まり、米国抜きの新たな地域秩序が到来しつつある。

以下本文

慈悲深く慈悲深い神の御名において

全能の神がこの地域のイスラム諸国、特にイスラム教徒イランの高貴な人々に授けられた特別な祝福の一つは、「ペルシャ湾」という贈り物です。これは単なる水域以上の祝福です。また、それは私たちのアイデンティティや文明の一

部でもあります。国々を結ぶだけでなく、ホルムズ海峡を経てオマーン海へと続く世界経済にとって重要で独自のルートを生み出しました。

この戦略的資産は何世紀にもわたり多くの悪魔たちの強欲を刺激してきました。ヨーロッパやアメリカの外国人による繰り返される侵略、それに伴う治安の悪化、被害、そして地域の国々に対する数々の脅威は、傲慢な列強たちがペルシャ湾地域の住民に対して仕組んだ陰謀のほんの一部に過ぎません。そのような計画の最も最近の例は、グレートサタン(アメリカ)による軍事力の恫喝です。

ペルシャ湾で最も長い海岸線を持つイラン国民は、ペルシャ湾の独立を守り、外国勢力や侵略者に立ち向かううえで、最大の犠牲を払ってきました。その努力は、ポルトガル勢力の追放とホルムズ海峡の解放（1622年　これがオルディベヘシュト月10日を『国家ペルシャ湾の日』と定めた理由であるから、オランダ植民地主義との闘い、さらに英国植民地主義への英雄的抵抗に至るまで、多岐にわたります。

しかし、イスラム革命は、傲慢な大国（アロガント・パワーズ）の手をペルシャ湾地域から断ち切ることで、こうした抵抗の歴史に転機をもたらしました。そして今、世界の暴虐者たちによる史上最大規模の軍事展開と侵略から2か月が経ち、米国の計画が屈辱的な敗北に終わったことで、ペルシャ湾とホルムズ海峡には新たな章が開かれつつあります。

長年にわたり、支配者たちが暴虐な勢力や侵略者に対して沈黙と屈辱を受け入れてきたことに慣れきっていたペルシャ湾地域諸国の人々は、この60日間、我が国の陸海軍とIRGC（革命防衛隊）の勇敢な海軍将兵が示した驚くべき力、洞察、そして闘いぶりを目の当たりにしました。さらに、外国支配を拒絶する、イラン南部の人々と若者たちの情熱と勇気も同時に見たのです。

今日、全能にして崇高なる神の恩寵、そして第三次“強いられた戦争”（米トイスラエルに仕掛けられた現在の戦争）で倒れた抑圧された殉教者たち　とりわけ先見性あるイスラム革命の指導者（神がその位階を高め給わんことを）

の血による祝福のおかげで、今や世界の世論も地域諸国の人々も、さらには湾岸諸国の王や支配者たちでさえ理解するようになりました。すなわち、

ペルシャ湾地域における不安定の主因は、アメリカという外国勢力の駐留と、その基地の恒常的な存在であるということです。

アメリカの脆弱な基地は、自分たち自身の安全すら守れないことが明らかになり、ましてや地域のアメリカ依存国や“アメリカ崇拜者”たちに安全を提供できるなどという期待は完全に崩れ去りました。

神の力と力によって、ペルシャ湾地域の輝かしい未来は、アメリカ抜きで、各国の進歩、福祉、繁栄が守られる未来となるでしょう。私たちはペルシャ湾とオマーン海の周辺の隣国と「共通の運命」を共有しています。何千キロも離れたペルシャ湾やオマーン海で貪欲に犯罪を行っている外国人たちは、ここにはその海底以外に居場所がない。この勝利の連鎖は、抵抗の賢明な政策と強力なイランの戦略のもと、神、崇高で祝福された神の恵みによって達成され、新たな地域および世界秩序の夜明けを示しています。

今日、イラン国民の奇跡的な覚醒は、もはやシオニズムや血に飢えた米国と戦うために命を捧げる覚悟を持つ“数千万の献身的な人々”だけに限られたものではありません。いまや、立ち上がったイスラム共同体（ウンマ）の最前線には、国内外にいる 9,000 万の情熱的で気高いイラン人が並んでいます。

彼らは、自らのアイデンティティ、精神性、人間性、科学、産業、そしてナノテクノロジーやバイオテクノロジーから核技術・ミサイル技術に至るまで、あらゆる能力を“国家の資産”とみなしています。そして、これらの資産を、海・陸・空の国境を守るのと同じ覚悟でかならず守り抜きます。

イスラム共和国イランは、ホルムズ海峡を実際に管理するという恩恵に感謝しつつ、ペルシャ湾の安全を確保し、敵対勢力によるホルムズ海峡の不当な利用を終わらせます。

イランが新たに進めるホルムズ海峡の管理体制と、それに対応する法的枠組みは、地域すべての国々にとって安心と発展をもたらすでしょう。その経済的な恩恵は、神の御心によって、人々の心を喜ばせることになるでしょう。たとえ不信心な者たちがこれを嫌がろうとも。

サイイド・モジタバ・ホセイニ・ハメネイ

オーディベヘシュト 10、1405 年

[2026 年 4 月 30 日]